



JSECEZ
日本環境動物昆虫学会

第31回日本環境動物昆虫学会年次大会

< 会 期 > 2019年11月30日(土)～12月1日(日)
 < 会 場 > 茨城県県南生涯学習センター(茨城県土浦市大和町9-1 ウララビル5F)
 < 大会委員長 > 大村 和香子((国研)森林総合研究所)

< 大会日程 >

会 場 (大会受付6F・ 中会議室2前)	A会場 (中講座室1)	B会場 (中講座室2)	ポスター会場 (小講座室1)	休憩室 (5Fロビー)	懇親会
11月29日(金)		理事会・評議員会 18:00～20:00 (小講座室1)			食楽バル TAKEO 18:00～20:00
11月30日(土)	9:45～11:30 一般講演	9:45～11:30 一般講演	ポスター添付 9:30～11:00 ポスター掲示 9:30～16:00 ポスター・ コアタイム 12:30～13:30		
	市民公開 シンポジウム (多目的ホール) 13:40～15:55	総 会 16:10～17:45 学会賞受賞講演 奨励賞受賞講演 <優秀講演 発表賞表彰> (多目的ホール)			
12月1日(日)	10:00～11:15 一般講演	10:00～11:15 一般講演			

日本環境動物昆虫学会

〒550-0005 大阪市西区西本町1-11-1 Tel・Fax 06(6535)4684

<http://www.soc.nii.ac.jp/kandoukon.org/>

大 会 参 加 費

会 員：大会参加費 5,000 円(学生 3,000 円)・学生 3,000 円 (11 月 1 日以降は各 1,000 円増し)

懇親会費 5,000 円(学生 3,000 円) (11 月 1 日以降は各 1,000 円増し)

非会員：大会参加費 7,000 円 (11 月 1 日以降は各 1,000 円増し)

懇親会費 5,000 円 (11 月 1 日以降は各 1,000 円増し)

公開シンポジウムのみ参加は無料

なお、納入された大会参加費及び懇親会費は参加を取り消されても返却はできません。

11 月 29 日 (金)

理事会・評議員会 (18:00～20:00)

11 月 30 日 (土)

一般講演 (研究発表 A・B 会場) (9:45～11:30)

ポスター発表 (コアタイム) (12:30～13:30)

市民公開シンポジウム (13:40～15:55)

総会 (16:00～17:45)

議題

報告

1. 庶務報告
2. 各委員会報告
3. 日本昆虫科学連合報告
4. 2019 年度学会賞・奨励賞

議題

5. 2018 年度決算案
6. 2019 年度中間決算案
7. 一般社団法人化について
8. 2020 年度年次大会について
9. 2020 年度事業計画案
10. その他

懇親会 (18:00～20:00)

12 月 1 日 (日)

一般講演 (研究発表 A・B 会場) (10:00～11:15)

口頭発表に関する注意事項のお知らせ

口頭発表：口頭発表は質疑応答を含めて 1 題 15 分とします。1 鈴 10 分、2 鈴 12 分、3 鈴 15 分で終了です。時間厳守をお願いします。講演取り消しの場合は、その時間は休憩時間とし、講演の繰り上げや追加はいたしません。

口頭発表でのプレゼンテーションは液晶プロジェクター (Power Point) を利用して行います。OHP およびスライドでの講演はできません。発表用のパソコンは、ウイルス感染防止のため、各自で持参してください。なお、講演者の質疑応答中に次演者のパソコンに接続を切り替えますので、質疑応答中での再投影はできません。

ポスター発表：パネルサイズの都合上、ポスターのサイズは縦 120cm×横 85cm 以内におさめてください。パネルへの貼付用のピンや画鋲は各自で用意ください。

★座長は最初を除いて前の講演者をお願いします。

大 会 長：大村和香子

実行委員：安部八洲男、神原広平、高倉耕一、所 雅彦、平井規央、松本和馬、
吉田宗弘 (五十音・敬称略)

☆特許取得を念頭において発表される研究者は、本学会年次大会で公表される前に、必ず特許出願をしてください。

日本の特許制度では、特許出願に先だって公表されたものは、原則、特許を受けることができませんが、特許法は、多くの規則がそうであるように例外規定を設けています。たとえば、「特許庁長官が指定する学術団体」において文書で公表した場合、公開後に特許出願が可能で、その発明、考案は新規性を失わないとされてきました。これは発明の新規性喪失（公表などにより特許出願ができなくなること）の例外を規定する特許法第30条によるものです。

ところが、平成23年5月に、この第30条が改正され、新規喪失の例外の適応範囲が著しく拡大されるとともに、「特許庁長官が指定する学術団体」という規定（旧30条1項）は削除されました。

また、それに伴い、この例外規定は、「証明書」等提出書類の簡素化を促し、出願手続きが以前より容易となるなど出願人にとってより利用しやすいものとなりました。

しかし、発明の新規性喪失の例外を盛り込んだこの第30条は、日本国内においてのみ有効であり、あくまで、例外措置を規定したものでしかなく、特許出願という観点からは、十分な意味で有効ではないということにご留意ください。

特許取得に関しては、原則、公表以前に特許出願を行うのが本旨であり、たとえ、学術集会で発明を公表したとしても、第三者が同様の発明を先んじて特許出願した場合は、公表者の特許出願は無効となる恐れがありますので、可能な限り、早く出願することが重要です。

下記は、特許庁のホームページにあります「平成23年度改正法対応発明の新規性喪失の例外規定についてのQ&A集」からの引用です。

Q:セミナーにおいて発明を発表し、発表後に第三者がその発表した発明と同じ発明を独自に発明して特許出願し、その後に発表者が特許出願した場合でも、このセミナーでは発表して発明について第2*の規定の適用を受ければ、発表者の出願は前記第三者がした出願により拒絶されることはないでしょうか？

A:拒絶される可能性があります。

第2項の規定の適用を受けても、出願日は遡りません。特許を受ける権利を有する者が出願する前に、第三者が独自に発明して特許出願した場合、前記特許を受ける権利を有する者がした出願は、前記第三者がした出願に基づいて拒絶される可能性があります。確実に権利を確保するためには、できるだけ早く出願することが望ましいといえます。

*新規性喪失の例外規定の適用を受けるための根拠条項

以上により次のことが言えます。

1. 例外規定は、あくまで、例外措置であり、公表した日まで、出願日の遡及を認めるものではありません。
2. 特許取得に関しては、発明の公開日より特許出願日の方が優先されます。

学会で公表したという証明書は、改正以前には、客観的根拠資料、第三者による証明書として一定の説明力があるとされていました。しかし、改正後は、出願人自らによる証明書だけでも、証明すべき事項が詳細に記載されていれば、一定の説明力があると認められますので、学会の証明者は、出願に際し必須要件ではなくなっております。上述した諸事情如何に関わらず、証明書を希望される発表者がおられましたら、事務局までご連絡下さい。

なお、本件に関する詳しい情報は、特許庁調整課審査基準室（Tel 03-3581-1101 内線3112）にお問合せください。

11月29日（金）18:00～20:00

時 間	内 容	会 場
18:00～20:00	理事会・評議員会	5F・小講義室1

第1日目 11月30日（土）9:00～20:00

時 間	内 容	会 場
9:00～	大会受付	6F・中会議室2前

9:45～11:30 一般講演 ○：発表者、※：優秀講演発表賞対象者 座長は最初を除いて前の講演者をお願いします

	A会場（中講義室1）	B会場（中講義室2）
9:45	A-1 ※○田島尚（信州大学総合理工学研究科）・大窪久美子（信州大学学術研究院農学系） 小規模で異なる植生環境がモザイク的に配置する大学構内における蛾類群集の環境指標性	B-1 ※○三石帆波・柳澤太洋・山城敬範・小林洋子・引土知幸・川尻由美・中山幸治（大日本除虫菊㈱ 中央研究所） 香料を用いた腐敗臭発生抑制およびコバエ類の誘引阻止
10:00	A-2 ※○向峯遼（筑波大・生物科学）・川津一隆（東北大・生命）・徳永幸彦（筑波大・生命環境） 長期時系列データでアブラゼミの羽化に迫る	B-2 ※○向永真也・菊田さやか・引土知幸・川尻由美・中山幸治（大日本除虫菊㈱ 中央研究所） ムカデ用ベイト剤の開発
10:15	A-3 ※○渡辺黎也（筑波大学生命環境科学研究科）・松島良介（筑波大学生命環境科学研究科）・依田剛明（筑波大学生物学類） 謎多き絶滅危惧種セスジガムシの生活史	B-3 ※○青木雄佑・井上弘（アース環境サービス㈱研究開発センター） 銅イオン溶液による、水生昆虫（ウスイロユスリカ）の生育阻害
10:30	A-4 ※○渡辺元気・梶村恒力（名古屋大学大学院生命科学研究科） カメラトラップ法を用いたコウベモグラの行動解析	B-4 ※○前田和輝・本田拓之・阿部練・野崎耕作・小堀富広（アース製薬㈱研究部） 新規スズメバチ用毒餌剤の開発
10:45	A-5 ※○木村文・宮田弘樹（㈱竹中工務店） 兵庫県川西市の落葉樹二次林におけるカシノナガクイムシの分布経年調査	B-5 ※○吉川優弥・梅澤究・板倉修司（近畿大学大学院農学研究科） イエシロアリの薬剤抵抗性に関する遺伝子の検討
11:00	A-6 ※○森井清仁・北野大輔（滋賀県立大学院・環境）・金井亮介（京都市）・高倉耕一（滋賀県立大学・環境） 近縁種との相互作用から解放されたサンヨウコガタスジシマドジョウは繁殖時に利用する環境が拡大する	B-6 ※○藪本紘基・Khoirul Himmi Setiawan・吉村 剛（京都大学生存圏研究所 居住圏環境共生分野） シロアリによる土壌中へのマイクロプラスチックの運搬
11:15	A-7 ○北野大輔（滋賀県大院・環境）・高倉耕一（滋賀県大・環境） ミスジミバエの幼虫間闘争の機能と一様産卵による闘争の回避：闘争は共食いか資源競争か	B-7 ※○箕浦るん・佐々木伸也・丸山省吾（㈱アサント）・大村和香子・神原広平・大平辰朗・楠本倫久（森林総研） シロアリ探知犬を用いた探知試験について
11:30	昼 食	

第1日目 11月30日(土) つづき

12:30~13:30	ポスター発表コアタイム	会場(小講義室1)
一般講演 ポスター発表(掲示は9:30~16:00) ○:発表者、※:優秀講演発表賞対象者 会場(小講義室1)		
P-1	○大楠剛司・荻内弘昭・橋爪崇・石原理恵・宮井一行(和歌山県工業技術センター)	人工知能を用いた虫よけ植物抽出物のスクリーニング
P-2	※○本間政人(信州大学農学部)・大窪久美子(信州大学学術研究院農学系)	長野県上伊那地方の小スケールでモザイク状の異なる植生環境下におけるゴミムシ類の群集構造と環境評価に関する研究
P-3	奥村真由(信州大学農学部、現所属は名古屋市)・○大窪久美子(信州大学学術研究院農学系)	三峰川水系におけるカワラバタの生息状況と食性に関する研究
P-4	○中西 康介(国立環境研究所)・西川潮(金沢大学)・横溝 裕行・林 岳彦(国立環境研究所)	クロラントラニプロールを成分とする育苗箱施薬が水田のアカネ属の羽化数におよぼす影響
P-5	○衣浦晴生(森林総合研究所関西支所)・法眼利幸(和歌山県林業試験場)・小南全良(和歌山県伊都振興局)	和歌山県紀北地域における樹幹注入剤によるナラ枯れ枯死予防効果
P-6	※○児玉敦也・河合幸一郎(広島大学・統合生命科学研究科)	ユスリカ科昆虫の走光性に関わる基礎的研究
P-7	※○渡辺祐基・木川りか(九州国立博物館)・藤原裕子・藤井義久(京都大学大学院農学研究科)	X線CTによるオオナガシバンムシ幼虫の行動および成長の評価
P-8	※○久岡知輝 ^{1,2} ・Sugeng Santoso ³ ・北野大輔 ¹ ・西田隆義 ¹ (1: 滋賀県大・院・環境, 2: トビタテ, 3: IPB Univ.)	マンゴーは文句なしの最適寄主植物〜天敵圧と栄養的質を総合的に評価する〜
P-9	※○植野侃太郎(信州大学大学院総合理工学研究科)・大窪久美子(信州大学学術研究院農学系)	本州中部・霧ヶ峰高原におけるアリ類群集の生物多様性および環境指標性評価
P-10	○神原広平(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)・高倉武・安台梨乃(アース製薬㈱)・酒井佳美・松原恵理(森林総合研究所)	ベイト剤を喫食したシロアリ体内の尿酸及び薬剤分析の試み
P-11	※○濱村太一(滋賀県大院・環境)・高倉耕一(滋賀県大・環境)	ミスジミバエのメス成虫間競争の適応的意義:産卵基質防衛による幼虫間競争の回避
P-12	※○丸田理温(広島大学大学院生物圏科学研究科)・河合幸一郎(広島大学大学院統合生命科学研究科)	日本産ヒメシジミ <i>Plebejus argus</i> の集団遺伝学的解析
P-13	○高倉耕一・井上昭也・杉山悠生理(滋賀県大環境)	外来ダンゴムシ2種間に示唆された繁殖干渉および将来の分布予測
P-14	○木村悟朗・草間俊宏・内田有治(イカリ消毒㈱)	LED誘虫ランプの周波数とデューティー比が飛翔性昆虫類の捕獲数に及ぼす影響(仮タイトル)
P-15	○Ni Putu Ratna Ayu Krishanti(RISH - Kyoto Univ., RCB - LIPI)・Izumi Fujimoto・Tsuyoshi Yoshimura(RISH - Kyoto Univ., RCB - LIPI)	Hydrogen and Methane Emission by Several Wood-boring Beetles
P-16	○瀬古祐吾(近大院・農)・早坂大亮(近大・農)・澤島拓夫(近大・農)	コロニー構造が採餌能力を通じてアルゼンチンアリおよび在来アリ類の薬剤応答に与える役割
P-17	○古川真莉子(滋賀県立大学/霞ヶ浦環境科学センター)・西田隆義(滋賀県立大学)	イラガの繭の形状と形成場所との関係:繭の形成コストを探索
P-18	※○高橋和太・都野展子(金沢大院・自然科学)	なぜ有機肥料栽培では害虫が少ないかーボトムアップの視点から解明ー
P-19	※○長井和洋・上田昇平・平井規央(大阪府大院・生命)	ヤマトサンショウウオ幼生の発育と成長における温度の影響
P-20	※○川本茂央 ¹ ・木村悟朗 ² ・上田昇平 ¹ ・平井規央 ¹ (1 大阪府大院・生命、2. イカリ消毒㈱)	コムナトゲユスリカの発育に及ぼす温度の影響
P-21	※○原口みく ¹ ・上田昇平 ¹ ・櫻谷慶治 ² ・中村繁貴 ² ・平井規央 ¹ (1 大阪府大院・生命、2. NEXCO 西日本)	高速道路造成地に新設されたビオトープ池における水生動物群集の3年間の変化

第 1 日目 11 月 30 日 (土) つづき

13 : 40~15 : 55	市民公開シンポジウム (5F 多目的ホール)
市民公開シンポジウム 「マツ枯れ対策の現状と展望」 総合司会：松本和馬 (環境再生保全機構) 開会挨拶ならびに開催趣旨説明：「環境問題としてのマツ枯れ」 松本和馬 (環境再生保全機構) 「マツ枯れ被害拡大の歴史とこれからの防除の展望」 中村克典 ((国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所) 「マツ枯れが広がる仕組み」 前原紀敏 ((国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林昆虫研究領域) 「抵抗性マツの開発」 宮下智弘 (山形県森林研究研修センター)・中島剛 ((地独) 青森県産業技術センター林業研究所)・井城泰一 ((国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター東北育種場) 閉会挨拶 松本和馬 (環境再生保全機構)	
16 : 10~17 : 45	総会 (多目的ホール) 学会賞 受賞講演 優秀講演発表賞 表彰
18 : 00~20 : 00	懇親会 (食楽 TAKEO)

第 2 日目 12 月 1 日 (日) 10:00~11:15

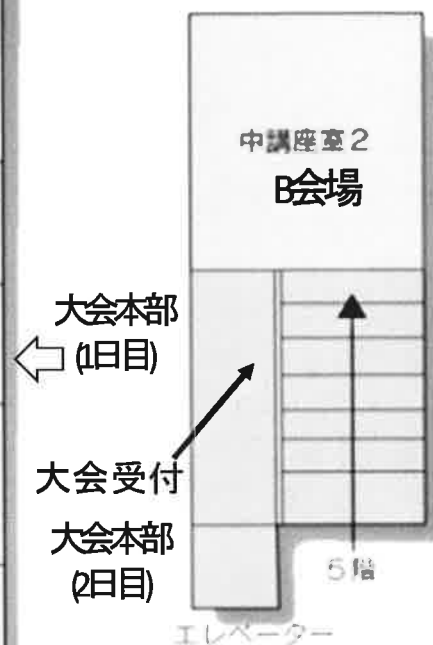
10 : 00~11 : 15 一般講演 ○ : 発表者 座長は最初を除いて前の講演者をお願いします		
	A 会場 (中講義室 1)	B 会場 (中講義室 2)
10 : 00	A-8 浦野忠久 (森林総合研究所) クビアカツヤカミキリの樹種別および年度別羽化消長	B-8 ○横尾暢哉 (アース環境サービス株) ショウジョウバエとノミバエの匂いに対する誘引捕獲への風の影響
10 : 15	A-9 ○江田慧子・神谷純子 (帝京科学大学) 蝶と植物の関係に関する教育プログラムの開発と実践	B-9 ○藤本いずみ・吉村剛 (京都大学生存圏研究所 居住環境共生分野) 木材害虫の人工飼育法の検討 第 1 報 ケブカシバンムシとホソナガシンクイに関する予備検討
10 : 30	A-10 江田慧子 (帝京科学大学)・萩原正朗 (日本自然保護協会)・○中村寛志 (信州大学名誉教授) 国営アルプスあづみの公園におけるオオオルリシジミ成虫のマーキングによる移動・分散について	B-10 ○石井 圭・鈴江光良・河本尚一 (アース製薬株) 神戸市ポートアイランドにおける顆粒状ベイト剤のアルゼンチンアリに対する防除効果
10 : 45	A-11 渡辺悠平・○平井規央・上田昇平 (大阪府大・生命) 大阪府南部の社寺林におけるチョウ類群集の種多様性	B-11 ○吉村 剛・藤本いずみ (京大生存研) トコジラミ用熱処理装置を用いた乾材害虫駆除の試み
11 : 00	A-12 沖本拓也 ¹ ・大門聖 ² ・平井規央 ¹ ・○上田昇平 ¹ (1 大阪府大院・生命, 2 河内長野市自然環境保護協議会) 和泉葛城山系におけるアリ類の群集構造	B-12 ○大村和香子・神原広平 (森林総研)・竹松葉子 (山口大院創成科学) 生立木へのイエシロアリ被害評価手法の開発
11 : 15	閉 会	

会場詳細図

5階平面図



6階平面図



会場内は原則飲食禁止ですので、休憩コーナー2か所をご利用ください。ご協力のほどよろしくお願いします。

会場へのご案内

茨城県県南生涯学習センター（茨城県土浦市大和町9-1 ウラビル5・6階）までのご案内

・ 電車でお越しの場合

JR 常磐線土浦駅西口から徒歩1分（ペDESTリアンデッキで駅から直結）

・ 車でお越しの場合

常磐自動車道土浦北I.C.、及び桜土浦I.C.から車で約15分

茨城県県南生涯学習センターには駐車場がありません。隣接している土浦市本庁舎駐車場は、出入口が一つのため、参加者多数の催しの場合、入出庫に多大な時間がかかる場合がございますので、他の近隣駐車場をご利用ください。



会場は 午前9時開場です。それより早く到着されても会場には入れませんので、ご注意下さい

好評発売中

絵解きで調べる昆虫②

～環境アセスメント動物調査講演会 絵解き検索シリーズ総編集～

日本環境動物昆虫学会 編 初宿成彦 監修

B5判 235頁・カラー表紙・本文11頁カラー 定価3,500円＋税

はじめに

絵解きで調べる昆虫の第2巻をお届けすることができました。前巻と合わせて、17の分類群について解説しています。膨大な昆虫のグループからするとまだまだ先は長いですが、確実な歩みとしたいと思います。本書の元となる環境アセスメント動物調査手法講習会は、27回を数えました。テキストをそろえると、日本の動物昆虫分野の調査方法や保護管理事例が概観できる便利な資料と言えます。そのテキストの中でも絵解き検索は好評で、昨年、熊澤辰徳さんが出版された「趣味からはじめる昆虫学」でも大きく取り上げていただきました。

一時期、生物の名前を知ることが軽視されたり、採集が良くないこととされたこともありましたが、それでも、自然を持続的に利用することの重要性が再認識され、その基礎が生物多様性への理解であるとの合意が広がりつつあります。本書が、そのような理解を広げる一助となれば幸いです。

購読申し込みは 日本環境動物昆虫学会 FAX06 (6535) 4684 r.takagi@f2.dion.ne.jp